

(様式第 6 号 別紙)

### 長崎県福祉サービス第三者評価結果報告

① 第三者評価機関名

特定非営利活動法人福祉総合評価機構

② 事業者情報

名称：平戸口社会館	種別：認可保育園
代表者氏名：真浦 タキヨ	定員（利用人数）：100 名（ 117 名）
所在地：長崎県平戸市田平町山内免 764-2 TEL 0950-57-0236	

\*施設・事業所情報は、事業所プロフィール参照

② 施設・事業所の特徴的な取組

- ① 自然に囲まれて、運動場が広く（トラックと人工芝がある）、年齢に遊ぶ場所を確保しやすい。天候が良ければ戸外遊びにでて年齢にあった遊びができる。また、異年齢児での遊びも行っている。体験豊富 職員が明るく、チームワーク良好（楽しい）を自覚している。
- ② 仕事熱心。問題のある子どもに対し、職員全体で話し合い解決に向けている園内だけでなく、他園との意見交換会に参加するなどし、自園だけの考えにならないようにしている。助け合って園内外の整備をしている。
- ③ 突発的、個人的 事情を理解し、勤務、休暇を習得しやすい状況を作っている。育児中の保育士に対して勤務しやすい体制をとっており、仕事と育児の両立がしやすいようにしている。

④ 第三者評価の受審状況

評価実施期間	令和 4 年 10 月 13 日（契約日） ～ 令和 5 年 3 月 31 日（評価結果確定日）
受審回数（前回の受審時期）	2 回（平成 29 年度）

## ⑤総評

### ◇特に評価の高い点

#### ■ インクルーシブ保育の実践

園では、発達支援において「3歳を逃すと大きい」との考えにあり、保護者と共に療育に取り組む体制を取っている。3歳未満児のクラスでは認定がおりないため、保護者が特別な支援は必要ないと考えるケースが多く、その場合は様子を見ながら気になる行動がある時は保護者に来園してもらい見学を勧めている。

市の保健師とも連携し、必要に応じて療育支援センター”まんてん”“あったかさん”に繋げており、医療機関や専門機関から相談や助言を受ける体制を整備している。

障害児担当の職員を主に、3歳未満児の気になる子どもについては、個別指導計画を成長に合わせた内容で作成する等の工夫が見てとれる。また、発達支援に関する外部研修への参加や園内研修により、職員間で必要な知識や情報を共有している。

全体的な計画の中で保育の特色として、「インクルーシブ保育」を掲げており、障害のある子どもが安心して生活できる環境の整備やケース会議等での検討、市の保健師をはじめとする関係機関との連携など多岐に渡る取組は特筆すべき点である。

#### ■ 子どもの主体性を育む保育

園では、子どもが自主的に遊びを選択できるよう、全クラスにモンテッソーリの教具や玩具をはじめ、絵本や玩具を揃えて環境を整えている。5歳児クラスには子どもが自ら調べることができるよう図鑑や折り紙の本なども設置している。

園庭では、野菜を栽培しており水やりをしたり、草花や虫などを観察するなど、身近な自然と触れ合うことができる環境を有している。

社会的ルールの習得として、商店でのお買い物体験がある。この体験では、プリペイドカードを紙で作って、現金ではない購買方法を学んでいる。地域の人々の協力を得て、栗拾いや芋掘りなども楽しんでいる。

園には柔道、絵画、体育、くもん等の外部の協力を得て学ぶ場を設けており、子どもが園外の大人との挨拶の仕方を習得する機会となっている。

職員は、全て教えるのではなく、わからないことを見守る支援に努めており、園の特筆すべき点である。

#### ■ 職員の働きやすい職場環境と質の高い保育

園では、職員の子どもの体調不良時などで直ぐに有給休暇を取得しやすい風土がある。また、職員は自身の有給休暇の残数を確認できるシステムもある。

園長は年末に職員の個人面談を行っている他、相談したい時は、主任が職員会議や保育士会でいつでも相談に応じることを伝えている。

産前産後休業や育児休業の復帰後は、早出、遅出は入れず、家庭優先を基本に働きやすい職場となるよう配慮していることが見てとれる。

昼休みを確保している他、各種記録は保育室内ではなく、クラスで交替しながら、2時間程度別室で行っている。

年に一回の健康診断がある他、職員のエプロンやTシャツを行事毎に揃えている。

園長、主任は職員に行事前の残業や持ち帰りの仕事はしないよう指導している。

離職率の低さや職員のコミュニケーションの良さから、働きやすい職場環境であることが窺え、高く評価できる。

## ◇改善を求められる点

### ■ 中・長期計画の策定

園長には設備整備や新事業等の中・長期的な計画があるものの、明確化はこれからである。主任や職員と検討しながら、着手する予定である。

理念に基づく保育目標“神様と人と自然を大切に子ども”“心も体も元気な子ども”“自分で考え、遊び、行動する子ども”を目指し、園としての中・長期計画について、職員とともに検討し、策定することに期待したい。

### ■ 子どもの安全を守るための災害対策及び不審者対策

毎月の災害訓練は、火災に対する避難訓練が主となっている。消防署からは消火や通報の仕方等の指導があり、学ぶ機会となっている。

地震等自然災害における職員の任務として、明記している手順に沿って訓練を行っており、地震を想定し、上段の駐車場への避難を子どもも一緒に訓練している。

園では、災害時の非常食は給食室に保管しており、賞味期限が迫っている食材を消費するために、さまざまな課題を見い出している。

更に 不審者対策のマニュアルは整備しており、防犯の紙芝居をもとに子どもたちに伝えているものの、園外活動中に不審者が現れた時の装備品の準備や訓練はこれからである。今後の取組が待たれる。

### ■ 利用者満足度をはかる取組

日々の子どもの満足度は、毎日、広い園庭で思いっきり遊んでいる子どもの表情からも読み取れる。また、子どもが園での様子を家庭で伝えた内容を保護者から連絡帳や会話により把握している。

保護者には新型コロナ禍以前は入園時や保育参観等、保護者が集まる場で聞き取る機会があったが、現状としては個人面談が主となっている他、保護者役員会に、主任が出席し行事内容等確認を取っている。

また、以前は食事に関するアンケートを実施したことはあるが、ここ数年は保護者全員に対するアンケートは実施していない。

利用者満足の向上を目的として、アンケートの実施など検討、取組が望まれる。

## ⑥第三者評価結果に対する施設・事業所のコメント

スタッフの快い対応により、ごく自然に第三者評価の事項に取り組むことが、自園を振り返る良い機会となりました。

慎重さの中にも笑顔でサポートして下さり、比較的高い評価を頂き感謝しております。

激動する現実、難しい問題も一杯ありますが、すべての面で肯定的に受け止め理念と方針を目指して、私たちの手を必要としている人に寄り添い、常に思いやり（愛）を与えることができるよう ONE TEAM（ワンチーム）で邁進していきたいと思っております。

## ⑦第三者評価結果

別紙の「第三者評価結果」に記載している事項について公表する。

## ⑧利用者調査及び書面調査の概要

(別紙)

## 第三者評価結果

※すべての評価細目（66項目）について、判断基準（a・b・cの3段階）に基づいた評価結果を表示する。

※評価細目毎に第三者評価機関の判定理由等のコメントを記述する。

## I 福祉サービスの基本方針と組織

## I-1 理念・基本方針

I-1-(1) 理念、基本方針が確立・周知されている。			
項 目		評価	コメント
1	I-1-(1)-①	a	<p>園は母体法人お告げのマリア修道会の理念である「互いに愛し合いなさい」の下、カトリックの愛の心を大切に、児童福祉法に基づき保育を必要とする子どもたちの保育を行っている。</p> <p>保育方針では、“カトリックの園として、あたたかい関わり合いの中で一人ひとりを大切にすること”、“神様の存在に気づき、祈りと感謝の心を育む”を掲げ、園の方針を明確にしている。</p> <p>園長は、毎朝朝礼で理念の復唱を取り入れたり、職員会議の中で講話したり、更に理念について研修を設けるなど、職員に向けて理念の周知を図っている。</p> <p>また、保護者に向けても入園時の保護者会等で伝えるとともに、理念や基本方針を園のしおりや重要事項説明書、ホームページに掲載している他、毎月発行しているクラスだよりには、聖書の引用“みことば”を記載する等、理念への理解と周知を図るよう努めている。</p> <p>園に定期的に来園する外部講師からは、子どもが咳をする友だちを気遣う姿に感銘を受けたとの感想が園長に寄せられており、保育室のマリア像へのお祈りが習慣化していることや、職員や保護者の姿から、互いを愛するという心得が浸透していることが見てとれる。</p> <p>理念の周知に向けた取組と子どもが健やかにカトリックの愛の心を育てていることは、特筆すべき点である。</p>
			理念、基本方針が明文化され周知が図られている。

## I-2 経営状況の把握

I-2-(1) 経営環境の変化等に適切に対応している。			
2	I-2-(1)-①	b	<p>園長は、市担当課が出席する市の園長会に毎月出席しており、法令等について最新情報を取得している。主任会には、主任が参加し、虐待について学んだり、障がい児支援施設の見学などに出掛け、現状を把握し園の保育に反映することに役立っている。</p> <p>その他、インターネットにて法人本部から福祉に関する情報を得る機会もあり、活用している。</p> <p>地域に関する情報は、第三者委員でもある民生委員や行政担当課職員の訪問時に聞き取る機会がある。</p> <p>近年、園児数が増加傾向にあることを情報として入手しており、園の園児数も増加することを予測している。</p> <p>更に放課後児童クラブの設立について依頼があるなど、園の事業経営を取り巻く環境等を的確に把握し、今後の検討課題としている。</p>
			事業経営をとりまく環境と経営状況が的確に把握・分析されている。

3	I-2-(1)-②	経営課題を明確にし、具体的な取り組みを進めている。	b	<p>園長は、経営状況として、組織体制や設備の整備、職員の人材確保及び育成に関して把握している。また、保育内容に関しては職員や主任とともに日々検討し、より良い保育を目指している。</p> <p>課題としては、園舎は築年数が経っているため、建物の修繕箇所が増えており、これから修繕していく予定であるものの、資金とのバランスがあるため検討している。</p> <p>そんな中、少しでも楽しく明るい雰囲気のある保育園になるようにとのアイデアから、園舎の外壁に絵を描いている。登降園時に外壁の絵を見ながら会話する親子も多い。</p> <p>また、駐車場からの通路の改善や敷地擁壁の整備等も行っており、課題について具体的に取り組んでいることが確認できる。</p>
---	-----------	---------------------------	---	---

I-3 事業計画の策定

I-3-(1) 中・長期的なビジョンと計画が明確にされている。

4	I-3-(1)-①	中・長期的なビジョンを明確にした計画が策定されている。	c	<p>園長は設備整備や新事業等について、中・長期的な計画を考えている。計画を明確化するのはいずれからである。</p> <p>今後、主任や職員と検討しながら、着手する予定である。今後の検討、取組に期待したい。</p>
5	I-3-(1)-②	中・長期計画を踏まえた単年度の計画が策定されている。	c	<p>園では中・長期計画の策定はいずれからの課題となっている。</p> <p>毎年度作成する単年度計画があり、令和5年度の計画も確認できる。単年度計画書だけでなく、計画を履行するために担当者を明記し、工程表も整えていることが確認できる。主任は職員と協働して更にブラッシュアップしたいと考えている。</p> <p>毎年度作成する単年度の事業計画書、事業報告書は職員会議で園長が説明しており、園の事業計画を全職員が理解し、共に実行できるよう周知を図っている。</p>

I-3-(2) 事業計画が適切に策定されている。

6	I-3-(2)-①	事業計画の策定と実施状況の把握や評価・見直しが組織的に行われ、職員が理解している。	a	<p>園の単年度事業計画に掲載する研修計画は副主任が作成し、それ以外は、園長、主任が作成している。実施状況は都度確認し、年末には評価、見直しに向けて検討を始めている。</p> <p>職員は事業計画の内容は把握しており、報告書についても園長が報告し、次年度の計画に繋がることを理解している。このように、事業計画の策定及び評価・見直しを職員を含め組織的にやっていることは、園の特長である。</p>
7	I-3-(2)-②	事業計画は、保護者等に周知され、理解を促している。	b	<p>園では、保護者にはキッズリーを用いて行事の計画を掲載し、周知を図っている。</p> <p>保護者総会にて、クラス担任や新人職員を紹介したり、子育て支援に活用する建物について新築すること等を報告している。新築工事については、掲示板やキッズリーも活用し、安全に送迎できるように、詳細に伝えている。</p> <p>工事については理事会の承認を得て、行っていることが議事録にて確認できる。</p>

I-4 福祉サービスの質の向上への組織的・計画的な取組

I-4-(1) 質の向上に向けた取組が組織的・計画的に行われている。			
8	I-4-(1)-①	保育の質の向上に向けた取組が組織的に行われ、機能している。	<p>a</p> <p>園長は、指導計画、支援経過記録の内容について、誰が読んでもわかるような表記であるべきと修正箇所を主任に伝授し、主任を通して職員指導にあたっている。また、年1回は職員との個人面談を実施しており、その折に直接指導したり、随時本人に伝えることもある。</p> <p>職員会議では行事の反省を話し合い、振り返りシートも活用している。</p> <p>園長は、職員にできるだけ専門科目、階級にあった外部研修に参加してほしいと考えている。また、年1回の自己評価における年度毎の目標設定や副主任を中心とした内部研修等、積極的な姿勢が窺える。</p> <p>更に、研修、美化、アルバム、防災の4委員会による活動の他、Webの導入により職員個々の強さ・弱さの傾向がわかり、スキルアップに繋がるなど、保育の質の向上に向けた組織的な取組は園の強みといえる。</p>
9	I-4-(1)-②	評価結果にもとづき保育所として取組むべき課題を明確にし、計画的な改善策を実施している。	<p>a</p> <p>前回の第三者評価受審後、Webを活用した月案や週案の様式への変更、4、5歳児用のトイレにシャワーを設置する等改善している。また、トイレ数の増加、マニュアル整備など多くの見直し、改善が確認できる。</p> <p>園長は自己評価や内部研修などを副主任に一任し、今年度はABの2班に分かれ、毎月2回同じ内容の内部研修を開催し、全職員が参加できるよう工夫しており、専門性の修得に努めている。</p> <p>評価結果や課題を職員会議で共有し、マンネリ化のないよう新しい発想を取り入れ、計画的に改善策を実施していることは、特筆すべき点といえる。</p>

II 組織の運営管理

II-1 管理者の責任とリーダーシップ

II-1-(1) 管理者の責任が明確にされている。			
10	II-1-(1)-①	施設長は、自らの役割と責任を職員に対して表明し理解を図っている。	<p>a</p> <p>園長は職務分担表で自らの役割を明確に明文化している。また、保護者宛てのお知らせの文書やキッズリーによる連絡事項等を園長名を記載し発信し、自身の思いや考えを表明している。</p> <p>園長補佐としての主任の役割は職務分担表に明記し、役割と責任を明確化していることが確認できる。</p> <p>また、園長、主任の二人が不在時には、副主任が責任者として任務を担う体制にあり、組織として責任を明確に表していることが確認でき、高く評価できる。</p>
11	II-1-(1)-②	遵守すべき法令等を正しく理解するための取組を行っている。	<p>b</p> <p>最新の遵守すべき法令は、長崎県保育協会や平戸市などから情報を得る他、全国保育協議会、母体法人姉妹園から得ることも多い。得た情報で職員に知らせるべきものは、園長が職員会議の場で伝えている。</p> <p>園では、0歳児のテラスにおけるゴーヤのグリーンカーテン、牛乳パックやペットボトルキャップを利用した子どもの玩具等、SDGsへの関心を高めていることから、環境面への配慮も含め遵守すべき法令を理解し、取り組んでいることが確認できる。</p>

Ⅱ-1-(2) 管理者のリーダーシップが発揮されている。				
12	Ⅱ-1-(2)-①	保育の質の向上に意欲をもち、その取組に指導力を発揮している。	a	<p>園長は、“日々明るく、何にでもチャレンジ”することが大切であるとの強い思いがあり、職員にも伝えている。</p> <p>外観にも明るさを取り入れるため、園舎外壁にデザイン壁画を描いたり、クラス毎の月間計画にWebを導入するなど多数取り組んでいることがわかる。</p> <p>職員会議では、「子どもの気持ちに立ってしっかりとかわること、保育士の姿が子どもの鏡となり、あたたかさは伝わるものである」と講話し、今年度の開園85周年記念誌にも同様に掲載している。また、そのようなかわりには子どもの心に残るもので、卒園児が職員として在籍しており、「あたたかい保育士とのかかわりのおかげで、保育士を志した」との言葉を聞くことができる。</p> <p>園長は、日々の保育の中で、ふさわしくない言葉があると指導している他、泣いている子の泣き声や泣き方の様子が普段と違うと察すると、現場に見に行くこともある。</p> <p>保育の質の向上に意欲を持ち、その取組に指導力を発揮していることは優れた点である。</p>
13	Ⅱ-1-(2)-②	経営の改善や業務の実効性を高める取組に指導力を発揮している。	b	<p>園では、美化、研修、防災、アルバムの委員会を組織しており、それぞれに3人の副主任がリーダーであり、主任、園長を交えて話し合っている。</p> <p>地域の子育てに役立てようと、敷地内に子育て支援のための建物を建てており、隔週木曜日の利用となっている。また、この建物は、個別面談や相談に乗る場所にも活用しており、業務の実効性を高める取組が見てとれる。</p>

## Ⅱ-2 福祉人材の確保・育成

Ⅱ-2-(1) 福祉人材の確保・育成計画、人事管理の体制が整備されている。				
14	Ⅱ-2-(1)-①	必要な福祉人材の確保・定着等に関する具体的な計画が確立し、取組が実施されている。	a	<p>園では、現在人材は充足している。数年前に人員が不足した時には短大等に求人票を出したり、実習生に声を掛けたりしたことがある。今年度は、法人内姉妹園に一年間派遣しており、更に新規の職員採用もある。</p> <p>職員からの紹介等もあり、働きやすい職場であることが推察される。</p>
15	Ⅱ-2-(1)-②	総合的な人事管理が行われている。	a	<p>法人理念・基本方針を基に、“お告げのマリア修道会の事業所で働く職員としての心得十ヶ条を祈る”に期待する職員像を明確にしている。</p> <p>法人の給与規定や人事基準を明確に定めており、職員への周知も図っている。職員配置は、まず主任と話し合い年度末に決定している。</p> <p>園長は、職員一人ひとりが働きやすい職場環境となるよう心掛けており、年1回の自己評価や個人面談を行い、職員の専門性や職務に関する成果等の評価・分析に努めている。</p> <p>また、キャリアアップ研修は、本人の特性に合わせて計画に入れている他、補助職員の中には、保育士になるため資格取得を目指している職員もあり、サポートしている。</p> <p>今年度は、保育士としての経験を積めるよう、若い職員をクラス担任に起用するなど、将来を見通した人事を組んでおり、高く評価できる。</p>

Ⅱ－２－（２） 職員の就業状況に配慮がなされている。				
16	Ⅱ-2-(2)-①	職員の就業状況や意向を把握し、働きやすい職場づくりに取り組んでいる。	a	<p>園では、職員の子どもの体調不良時などで直ぐに有給休暇を取得しやすい風土がある。また、職員は自身の有給休暇の残数を確認できるシステムもある。</p> <p>園長は年末に職員の個人面談を行っている他、相談したい時は、主任が職員会議や保育士会でいつでも相談に応じることを伝えている。</p> <p>産前産後休業や育児休業の復帰後は、早出、遅出は入れず、家庭優先を基本に働きやすい職場となるよう配慮していることが見てとれる。</p> <p>昼休みを確実に取っている他、各種記録は保育室内ではなく、クラスで交替しながら、2時間程度別室で行っている。</p> <p>年に一回の健康診断がある他、職員のエプロンやTシャツを行事毎に揃えている。</p> <p>園長、主任は行事前の残業や持ち帰りの仕事はしないよう、園内で処理するように指導している。</p> <p>離職率の低さや職員のコミュニケーションの良さから、働きやすい職場環境であることが窺え、高く評価できる。</p>
Ⅱ－２－（３） 職員の質の向上に向けた体制が確立されている。				
17	Ⅱ-2-(3)-①	職員一人ひとりの育成に向けた取組を行っている。	b	<p>園では、法人による“お告げのマリア修道会の事業所で働く職員としての心得十ヶ条を祈る”で期待する職員像を明確にしている他、毎月職員会議内で書籍“保育者に求められる100の常識”を項目ごとに取り上げている。</p> <p>園長は年1回の個人面談で職員と話し合っており、補助の職員が保育士を目指している等、本人の意向を聞き取っている。</p> <p>ただし、職員の目標設定、目標水準、目標期限など、目標の管理までには至っておらず、組織としての仕組みや取組は確認できない。</p> <p>今後は、中間面接や年度末の目標達成度の確認等、目標の管理体制を構築し、職員一人ひとりの育成と本人の保育へのモチベーション向上に向けた今後の取組に期待したい。</p>
18	Ⅱ-2-(3)-②	職員の教育・研修に関する基本方針や計画が策定され、教育・研修が実施されている。	b	<p>今年度から、全体的な計画の中で“保育方法～こんな方法を取ります～”9項目の他、“目指す保育者像”を掲載している。</p> <p>園では、各職員に必要な研修を選別し、LIVEオンラインセミナーやオンデマンドセミナーを受講している他、今年8月にはホールに大学教授を講師に招いて研修を行っている。</p> <p>園では、職員一人ひとりが、必要な研修を受講できるよう見直したり、本人が希望する資格取得の支援しており、職員の教育、研修の実施が確認できる。</p>
19	Ⅱ-2-(3)-③	職員一人ひとりの教育・研修の機会が確保されている。	a	<p>園では、キャリアアップ研修等、各担当分野ごとに外部研修を受講した後は、園内で他の職員にフィードバックし、情報の共有を図っている。</p> <p>園内で開催した大学教授による研修には、非常勤職員も参加しており、全職員の積極的な姿勢が見てとれる。</p> <p>また、新人職員には、ベテランの職員や主任によるOJTを適切に実施する等、職員一人ひとりの教育、研修の機会を広げる取組は優れている点である。</p>
Ⅱ－２－（４） 実習生等の福祉サービスに関わる専門職の研修・育成が適切に行われている。				
20	Ⅱ-2-(4)-①	実習生等の保育に関わる専門職の研修・育成について体制を整備し、積極的な取組をしている。	a	<p>実習生は、毎年、大学、短大からの依頼があり、受け入れている。主任が受入れ担当であり、実習生に何を学びたいかを聞き取り、対応している。</p> <p>実習生受入れの意義を明記した実習受入れマニュアルを整備しており、職員会議では自分を振り返る機会でもあることを伝え、職員に周知を図っている。</p> <p>学校が作成しているプログラムに沿って、実習を行っており、園では、主任が実習指導者の研修を受講していることが修了証から確認できる。実習生の受入れに関して、担当やマニュアルなど体制を整備し、将来の専門職の育成に努めていることは、特筆すべき点である。</p>



Ⅱ-3 運営の透明性の確保

Ⅱ-3- (1) 運営の透明性を確保するための取組が行われている。			
21	Ⅱ-3-(1)-①	運営の透明性を確保するための情報公開が行われている。	a ホームページやパンフレット、入園のしおり、重要事項説明書にて園の保育理念・保育方針を掲載している。ホームページには、前回受審の平成29年第三者評価受審結果報告書の他、苦情解決の仕組み、苦情等解決公表ページ等があり、ワムネットでは、母体法人が財務諸表等を情報公開している。また、園だよりで苦情の有無を掲載していることも確認できる。 新型コロナ禍以前は、地域に向けた情報公開として、商店街等に園の行事案内を子育て支援事業のポスターと共に掲示しており、収束後には再開予定である。平戸市のホームページにも子育て支援について取組状況を掲載しており、運営の透明性の確保に努めていることは優れた点である。
22	Ⅱ-3-(1)-②	公正かつ透明性の高い適正な経営・運営のための取組が行われている。	a 園長が責任者として、法人本部の経理規程に準じ、相見積もりや小口現金管理等を行っている。法人の監事から内部監査を受け、新型コロナ禍ではオンラインによる理事会にも参加し承認を得ている。 会計事務所や社会保険労務士の定期的な訪問により助言・指導を受け、また、園長はお告げのマリア修道会下の他の社会福祉法人の評議員を努めるなど、公正かつ透明性の高い適正な経営、運営において法人組織として、積極的に取り組んでおり高く評価できる。

Ⅱ-4 地域との交流、地域貢献

Ⅱ-4- (1) 地域との関係が適切に確保されている。			
23	Ⅱ-4-(1)-①	子どもと地域との交流を広げるための取組を行っている。	a 園では、学校図書の読み読みのボランティアが主催している小学校での読み聞かせに協力しており、小学校が指名する職員が出向いて読み聞かせを行っている。この読み聞かせは、職員にとっても卒園児と再会できる楽しみな機会となっている。 また、大根抜きや栗拾い等に招かれ体験したり、地域の行事であるつばき祭や桜祭、パレード等に参加しており、園では地域との交流機会を大切にしている。 子どもを育てるには、保護者、園だけでなく地域全体でとの考えの下、取り組んでいることは特筆すべき点である。
24	Ⅱ-4-(1)-②	ボランティア等の受入れに対する基本姿勢を明確にし体制を確立している。	b シルバー人材センターから、草刈りのボランティアがある他、中高生の職場体験も受け入れている。高校生は授業の専科として実習を兼ねていることもある。以前は高校生が夏祭り、運動会に訪れ、手伝っていたことがある。 園のボランティアのマニュアルは確認できる。ただし、ボランティアに対して子どもの個人情報保護等、注意事項を記したものは無い。今後の検討、取組に期待したい。
Ⅱ-4- (2) 関係機関との連携が確保されている。			
25	Ⅱ-4-(2)-①	保育所として必要な社会資源を明確にし、関係機関等との連携が適切に行われている。	b 園に必要な社会資源として、警察署、消防署、図書館などの連絡簿を事務所に設置しており、職員が活用している。外出行事先は、各担当職員が決定している。 園長は市の要保護児童対策地域協議会に参加している。 障害児支援では療育支援センター”まんでん” “あったかさ”など複数の機関と連携している他、勤労感謝の日は子ども手作りの感謝状と折り紙のリーフ飾りを持参し、警察署、郵便局、精肉店、銀行、病院等多数出向いている。

Ⅱ-4-(3) 地域の福祉向上のための取組を行っている。				
26	Ⅱ-4-(3)-①	地域の福祉ニーズ等を把握するための取組が行われている。	a	<p>園では、子育て支援事業のための建物を建設し、隔週木曜日の午前中に地域の未就学児と保護者を受入れており、無償で子育てに関する相談等に対応している。また、市主催の幼保小連携に参画しており、会議に出席して地域の福祉ニーズの把握に役立っている。</p> <p>行政との連携を密にしており、今後、放課後児童クラブの設置などの情報を得ており、園として検討している。</p> <p>地域の福祉ニーズを把握するとともに園としてできることを検討していることは、優れた点である。</p>
27	Ⅱ-4-(3)-②	地域の福祉ニーズ等にもとづく公益的な事業・活動が行われている。	a	<p>子育て支援は無償で行っており、地域の親子が訪れている。地域の防災対策として、消防パレードに4、5歳児が参加している。園は公民館に次いで地域の公的な避難所である。防災については、市の防災無線が役立っており、地域の避難所として備蓄等を行っている。</p> <p>ネット通販サイトが運営する古着を集めて、アフリカ等へのワクチンになる活動があり、役立ててもらおうと職員間で古着を集めて送っている。</p> <p>園には、子ども食堂告知のポスターを掲示している。更に2ヶ月に一度程度、行政のフードバンクに向けて平戸市内の同宗教法人の保育園等が食材を提供する活動に園長が関わっており、地域の福祉ニーズに基づくさまざまな活動は、高く評価できる。</p>

## Ⅲ 適切な福祉サービスの実施

## Ⅲ-1 利用者本位の福祉サービス

Ⅲ-1-(1) 利用者を尊重する姿勢が明示されている。				
28	Ⅲ-1-(1)-①	子どもを尊重した保育について共通の理解をもつための取組を行っている。	a	<p>理念や“お告げのマリア修道会の事業所で働く職員としての心得十ヶ条”に愛すること、一人ひとりを大切にすることが明示されている。</p> <p>職員は、毎日の朝礼での唱和、外部講師による内部研修の他、児童憲章をホールに掲示し、職員間の共有を図っている。</p> <p>園長は、職員会議で子どもの思いに共感することの大切さを説明していると共に、職員は声の大きさや言葉遣いを始めとする子どもへの接し方の基本姿勢を心得ている。</p> <p>園長のリーダーシップのもと、子どもを尊重した保育について園内で共通の理解を持つよう取り組み、職員の意識向上に注力していることは高く評価できる。</p>
29	Ⅲ-1-(1)-②	子どものプライバシー保護に配慮した保育が行われている。	a	<p>プライバシー保護のマニュアルを整備し、職員会議や内部研修等において、子どもや保護者のプライバシーの保護及び虐待防止等の権利擁護について正しく理解していることが確認できる。</p> <p>プール利用の際はカーテンを使用し男女別に着替えている他、前回の第三者評価受審後、年長児が排泄での失敗時に3歳未満児クラスのシャワーを使用していたため羞恥心への配慮から、年長児用トイレにシャワーを新設するなど改善点が確認できる。</p> <p>また、保育実践において、子どもの個人ファイル記録は人目に触れないように留意し保管場所も定め、職員間の守秘義務の徹底など、子どものプライバシー保護に配慮した保育を実施しており、特筆すべき点である。</p>
Ⅲ-1-(2) 福祉サービスの提供に関する説明と同意（自己決定）が適切に行われている。				
30	Ⅲ-1-(2)-①	利用希望者に対して保育所選択に必要な情報を積極的に提供している。	b	<p>園への見学希望者は子育て支援事業で地域の親子が来所した際や、ホームページを閲覧後の電話などさまざまに問い合わせも多い。はじめに、子どもの様子が見たいのか、保育士と話をしたいのかを尋ね、その後見学時間を設定している。園内を主任が案内し、場合によっては各クラス担任が対応するなど、利用希望者に対して保育所選択に必要な情報を積極的に提供していることが分かる。</p>

31	Ⅲ-1-(2)-②	保育の開始・変更にあたり保護者等にわかりやすく説明している。	b	<p>入園時は“入園のしおり”により持ち物等を説明している。入園日に児童の記録を提出してもらい“重要事項説明書”は1週間のならし保育期間後に改めて時間を取って説明しており、深く理解を得るための配慮が窺える。</p> <p>保育内容の変更の折は、新型コロナ関連報告、延長保育時間の変更等、キッズリーを主に活用しており、参加不参加の返事が必要な時は出欠の確認を取っている。</p>
32	Ⅲ-1-(2)-③	保育所等の変更にあたり保育の継続性に配慮した対応を行っている。	b	<p>転園の際は、転園先に児童要録を提出し園での様子を知らせている。また、他の園からの入園も同様に書類が届き、配慮が必要な子どもなど事前情報を得ている。</p> <p>卒園後は、1年生にのみ、クリスマス会や運動会、夏祭りの案内状や年賀状を園から送っている。また、小学校、中学校、高校の卒業式や就職の折も卒園児が園を訪れており、園も菓子準備し祝う等、卒園後も途切れずに関係が継続していることが見てとれる。</p>
<b>Ⅲ-1-(3) 利用者満足の上昇に努めている。</b>				
33	Ⅲ-1-(3)-①	利用者満足の上昇を目的とする仕組みを整備し、取組を行っている。	b	<p>日々の子どもの満足度は、毎日、広い園庭で思いっきり遊んでいる子どもの表情からも読み取れる。また、子どもが園での様子を家庭で伝えた内容を保護者から連絡帳や口頭により把握している。</p> <p>保護者には新型コロナ禍以前は入園時や保育参観等、保護者が集まる場で聞き取る機会があったが、現状としては個人面接が主となっている他、保護者役員会に、主任が出席し行事内容等確認を取っている。</p> <p>また、以前は食事に関するアンケートを実施したことはあるが、ここ数年は保護者全員に対するアンケートは実施していない。</p> <p>利用者満足の上昇を目的とする取組として、アンケートの実施などの検討が望まれる。</p>
<b>Ⅲ-1-(4) 利用者が意見等を述べやすい体制が確保されている。</b>				
34	Ⅲ-1-(4)-①	苦情解決の仕組みが確立しており、周知・機能している。	b	<p>苦情解決の体制を整備し、ホームページや重要事項説明書、入園のしおりに掲載している。苦情や意見がない場合も園だよりにより毎月掲載し報告している。職員は、保護者からの相談内容を、はじめに主任に報告し、主任が事実確認を行い、最終判断は園長が指示しており、組織的な対応方法を定めている。</p> <p>ただし、保護者等が苦情を申し出しやすい工夫として、意見箱の設置場所等今後の検討・取組が望まれる。</p>
35	Ⅲ-1-(4)-②	保護者が相談や意見を述べやすい環境を整備し、保護者等に周知している。	a	<p>園では、入園のしおりの最終頁で「どんなことでも結構です。お気軽にご相談下さい。」と枠を設け掲載している他、園の連絡先として、昼間と夜間用の連絡先も記すなど相談に応じる姿勢を伝えている。</p> <p>相談場所は、内容によっては、園長と主任が事務室で対応している他、子育て支援事業で新設した“おひさまハウス”を利用しゆっくりと話せる空間を設けている。また、担任に限らず主任への相談も受け付けており、保護者が相談や意見を述べやすい環境を整備し、保護者等に周知するための取組は高く評価できる。</p>
36	Ⅲ-1-(4)-③	保護者からの相談や意見に対して、組織的かつ迅速に対応している。	b	<p>職員が聞き取った苦情等は迅速に事務室の主任、園長に報告があり、その日の夕方には返答するよう努めている。離乳食の相談等は調理担当、0歳児担任、看護師の職員による連携体制を構築している。</p> <p>ただし、相談や意見を受けた際の記録の方法や報告の手順、対応策の検討等について定めたマニュアル等を整備し、職員へ周知を図るまでには至っていない。今後の検討・取組が望まれる。</p>

Ⅲ-1-(5) 安心・安全な福祉サービスの提供のための組織的な取組が行われている。				
37	Ⅲ-1-(5)-①	安心・安全な福祉サービスの提供を目的とするリスクマネジメント体制が構築されている。	b	園では、リスクマネジメントに繋がるヒヤリハットを各クラス月ごとに日時・場所・発生状況・改善点を出している。日頃から遊具点検記録等により保育に関わる設備の安全確認や定期的なメンテナンスに努めている。 また、事故防止に関するマニュアルも整備し、看護師の職員による安全確保・事故防止に関する園内研修も行っている。 ただし、ヒヤリハット内容の集計によるリスクの洗い出し、情報の分析等の仕組みづくりが待たれる。更なる安心・安全な保育提供を目的としたリスクマネジメント体制の構築に期待したい。
38	Ⅲ-1-(5)-②	感染症の予防や発生時における子どもの安全確保のための体制を整備し、取組を行っている。	a	園では、看護師を2名配置している。 コロナウイルス陽性者発生時は、キッズリーではクラス名と人数を知らせている他、ホール出入口が子どもを受け入れる場であり、傍の掲示板にインフルエンザの人数を知らせ、周知を図っている。 看護師が感染症マニュアルを作成し、各クラスに掲示して職員の理解を促すとともに、消毒液を作ったり補充している。 毎月、保健担当の職員と看護師が検討して、保健だよりを発行しており、感染症について予防策や発生時の対応について家庭に知らせていることがわかる。嘔吐下痢は、看護師が処理方法の手順を指導している。 子どもの安全確保のために、看護師を中心に体制を整えるとともに、予防と対応方法について周知徹底を図っていることは、高く評価できる。
39	Ⅲ-1-(5)-③	災害時における子どもの安全確保のための取組を組織的に行っている。	b	園では、火災時の自衛消防組織を編成するとともに、地震災害防災対策組織、土砂災害防災対策組織も編成していることが各組織表から確認できる。 毎月の災害訓練は、火災に対する避難訓練が主となっている。消防署からは消火や通報の仕方等の指導があり、学ぶ機会となっている。 災害時の非常食は給食室に保管しており、賞味期限が迫っている食材を消費するために、さまざまな課題を見出している。 地震災害における職員の任務として、明記している手順に沿って訓練を行っており、地震を想定し、上段の駐車場への避難を子どもも一緒に訓練している。 災害時は、消防署や市担当課の協力を得る体制を整えている。 また、園は玄海原子力発電所で事故が発生した場合の避難区域に入っているため、避難場所を確認している。
40	Ⅲ-1-(5)-④	不審者の侵入時などに対応できるマニュアルが整備されており、その対応方法について、全職員に周知されている。	b	不審者対策のマニュアルは整備しており、防犯の紙芝居をもとに子どもたちに伝えている。 敷地内における不審者侵入の訓練はあるものの、園外活動時に不審者が現れた時の装備品の準備や訓練はこれからである。 今後の取組が待たれる。

### Ⅲ-2 福祉サービスの質の確保

Ⅲ-2-(1) 提供する福祉サービスの標準的な実施方法が確立している。				
41	Ⅲ-2-(1)-①	保育について標準的な実施方法が文書化され保育が提供されている。	a	勤務別仕事表は、時間別に行うことを明記している。例えば、早出や延長保育にかかる行うべきことが時系列にわかるよう明示している。そのほか、保育にかかるマニュアルを整備しており、内部研修ではマニュアルに沿って学び、理解を深めている。 母体宗教法人が作成している保育マニュアルをもとに、各保育園が特色を加筆している。特に文字だけでなく、写真カードなどを用いわかりやすい工夫がある。 保育マニュアルが、園の保育の基礎となり、職員が理解して保育を提供していることは、特筆すべき点である。
42	Ⅲ-2-(1)-②	標準的な実施方法について見直しをする仕組みが確立している。	a	園では、保育マニュアルは、各クラスで検討し見直したものを副主任がまとめて主任に報告し、次の改訂に繋げている。 保育マニュアルの評価・見直しのPDCAサイクルが確立しており、全職員が関わる仕組みがあることは高く評価できる。

Ⅲ－２－（２） 適切なアセスメントにより福祉サービス実施計画が策定されている。				
43	Ⅲ-2-(2)-①	アセスメントにもとづく指導計画を適切に作成している。	a	<p>子どもに関する情報としては、毎年度始めに保護者が提出する児童の記録、健康調査票がある。</p> <p>また、職員は日常的に保護者との会話から、子どもの保育ニーズを聞き取り、保育に反映している。</p> <p>発達の気になる子どもについては、行政の保健師や療育施設、言語療法士、作業療法士と連携して、保護者の意向を基にさまざまな視点の意見やアイデアを活かした指導計画を作成し、本人の困り感を軽減できるよう取り組んでいる。</p> <p>要保護児童対策地域協議会の際に、ケース会議を開いており主任、担当職員が出席している。</p> <p>また、保護者が精神的に不安定な時には、子どもに影響が出ることも考えられるため、行政も関わり支援している。</p> <p>園の指導計画への取組は、優れた点である。</p>
44	Ⅲ-2-(2)-②	定期的に指導計画の評価・見直しを行っている。	a	<p>全体的な計画から年間指導計画に連動していることが確認できる。</p> <p>園では、2歳児からwebを活用した月案週案を作成しており、3歳以上児も3ヶ月ごとに個別の指導計画を作成している。</p> <p>webを活用した月案週案は、繋がりや実践した保育内容がわかりやすく、可視化に役立っている。</p> <p>年度末に年間指導計画を評価・見直しを行うために各クラスで振り返っている。指導計画についてPDCAサイクルが稼働していることは高く評価できる。</p>
Ⅲ－２－（３） 福祉サービス実施の記録が適切に行われている。				
45	Ⅲ-2-(3)-①	子どもに関する保育の実施状況の記録が適切に行われ、職員間で共有化されている。	a	<p>園では統一した様式を用いて、個別記録を作成している。特に障がい児の記録は、それぞれに内容が異なるため、その都度記録方法を検討し、見直している。</p> <p>各クラスの記録はファイルに綴じて、いつでも閲覧できるよう設置している。</p> <p>主任は、記入に関して差異が生じないように、記入方法を指導している。一日の予定等、園内で共有すべき情報は、毎日の朝礼で伝えるとともにボードを活用して、職員間で共有しており、子どもに関する保育の状況を適切に記録し、職員間で保育に役立てていることは優れた点である。</p>
46	Ⅲ-2-(3)-②	子どもに関する記録の管理体制が確立している。	b	<p>子どもの記録管理の責任者は園長であり、文書の保存期間に沿って、管理・保存している。園内のパソコンデータをUSBメモリースティックに保管する場合は、鍵のかかる所定の場所であるなど徹底している。</p> <p>ただし、毎日のさまざまな記録を作成する時は、クラス内で時間を区切り、現場を離れて記録するよう取り組んでいるが、子どもの状況によっては、うまく機能していないことが課題にあがっている。</p> <p>また、園だより等の写真掲載における肖像権の同意については口頭のみとなっている。</p> <p>上記事項を再度検討し、記録の管理体制を構築していくことが望まれる。</p>

A－１ 保育内容

A－１－（１） 全体的な計画の作成				
項 目		評価	コメント	
1	A-1-(1)-①	a	<p>母体宗教法人が作成している全体的な計画の基本として、各園にて環境等を踏まえ、作成している。</p> <p>全体的な計画は、理念に沿って、“めざす子ども像” “めざす保育者像” “めざす保護者像”を設定していることは特長であり、園として目指す保護者像に向けて、家庭支援に繋げていることは特筆すべき点である。</p> <p>園では、一年をふり返り保育士会で検討して作成する手順があり、保育において全体的な計画が機能している。</p>	

A-1-(2) 環境を通して行う保育、養護と教育の一体的展開				
2	A-1-(2)-①	生活にふさわしい場として、子どもが心地よく過ごすことのできる環境を整備している。	b	<p>各クラスには温度湿度計を設置しており、職員は適切な状態となるよう気を付けている。室内には天窓があり明るく、窓ガラスには紫外線防止フィルムを貼り、良好な環境となっている。</p> <p>3歳未満児クラスには、座ったり、寝転んだりしても心地よく過ごせるように、クッション性のあるマットを敷いている他、0、1歳児のクラスは床暖房を設置している。園庭にも同様のマットを敷いており、夏場は熱くなるため簀の子に交換している。各クラスには、鏡を設置しており幼少期から身だしなみを整えるよう援助している。</p> <p>モンテッソーリの教具、童具が各クラスにあり、一人ひとりの子どもの育ちに合わせて、興味を持ち、使えるように配慮していることがわかる。</p> <p>障がい児だけでなく、子どもが落ち着かない時には、パーテーションで仕切って小スペースを設け、一人で落ち着けるようサポートしている。</p> <p>トイレの使用について、安全性は確認できるものの素足での出入りがあるため、衛生面から検討の余地があると思われる。検討、取組に期待したい。</p>
3	A-1-(2)-②	一人ひとりの子どもを受容し、子どもの状態に応じた保育を行っている。	b	<p>職員は、日々子どもの育ちを把握しており、表現が十分でない中、自ら思いを伝えようとする時には、視線を合わせて傾聴し、言葉にして返すことで本人の満足感に繋げている。</p> <p>保護者とのやり取りを重視しており、家庭での子育ての困り感や事情を理解して、子どもへの声掛けや援助に配慮している。情報は職員間で共有し、話し合いながら最良の方法を検討している。</p> <p>職員は、一人ひとりの子どもを受容し、保育に反映していることがわかる。</p> <p>ただし、園として、職員の子どもに対する言葉遣いや制止する言葉、声の大きさは課題と捉えている。今後、検討、取組が望まれる。</p>
4	A-1-(2)-③	子どもが基本的な生活習慣を身につけることのできる環境の整備、援助を行っている。	a	<p>園では、一人ひとりの子どもの発達に合わせて、トイレトレーニングや箸の持ち方、歯磨き、着替えなどの基本的な生活習慣が身に付くよう指導している。</p> <p>子どもが理解できるよう、職員は言葉だけでなく、写真やカードを使って説明しており、一つのことのできた時には、褒めて成功体験を積むことが喜びとなるよう援助している。また、失敗した時には、優しく声を掛けて励ましている。</p> <p>歯磨きは、1歳児から茶でうがいを始めるところからのスタートとなり、少しずつ歯磨きに興味を持つよう援助している。</p> <p>特に2歳児になると、弁当箱を持参し主食を取るようになるため、弁当箱を包むための包み方の練習を始めており、職員によって包み方、縛り方が異なることがないように、統一した方法、手順で指導している。</p> <p>子どもの個性も把握しながら、生活習慣の習得について全職員が関わり、丁寧に行っていることは、高く評価できる。</p>
5	A-1-(2)-④	子どもが主体的に活動できる環境を整備し、子どもの生活と遊びを豊かにする保育を展開している。	a	<p>園では、子どもが自主的に遊びを選択できるよう、全クラスにモンテッソーリの教具や童具をはじめ、絵本や玩具を揃えて環境を整えている。5歳児クラスには子どもが自ら調べることができるよう図鑑や折り紙の本なども設置している。</p> <p>園庭では、野菜を栽培しており水やりしたり、草花や虫などを観察するなど、身近な自然と触れ合う環境がある。</p> <p>社会的ルールの習得として、商店でのお買い物体験がある。この体験では、プリペイドカードを紙で作って、現金ではない購買方法を学んでいる。地域の人々の協力を得て、栗拾いや芋掘りなども楽しんでいる。</p> <p>園には柔道、絵画、体育、くもん等の外部の協力を得て学ぶ場を設けており、子どもが園以外の大人との挨拶の仕方を習得する機会となっている。</p> <p>職員は、全て教えるのではなく、わからないことを見守る支援に努めており、園の特筆すべき点である。</p>

6	A-1-(2)-⑤	乳児保育（0歳児）において、養護と教育が一体的に展開されるよう適切な環境を整備し、保育の内容や方法に配慮している。	a	<p>室内は、フロアと畳の2部屋がある。現在老朽化により工事中であるが、弾力性のあるシート付のテラスも備え採光良く、空調を管理するなど、乳児が長時間過ごすことに適した環境である。</p> <p>職員は、愛着関係を築くために、抱っこやおんぶ、ゆったりとした声掛けで応答的にかかわり、泣いている子や甘えたい子など、複数担任により連携し対応している。また、園庭に出て体を動かしたり、廊下を歩いたり、自然に触れながら探索活動も援助している。</p> <p>“てつなぎ”での伝達や送迎時に直接保護者と話すことで家庭との連携を密にしている。</p> <p>看護師が乳児クラスに就き健康状態を管理し、SIDS対応マット使用により5分置きに呼吸や寝息をチェックしている他、オムツ交換台にもマットを敷くなど衛生管理に努めている。</p> <p>乳児保育において、養護と教育が一体的に展開されるよう適切な環境を整備し、保育の内容や方法に配慮した取組は高く評価できる。</p>
7	A-1-(2)-⑥	3歳未満児（1・2歳児）の保育において、養護と教育が一体的に展開されるよう適切な環境を整備し、保育の内容や方法に配慮している。	a	<p>1歳児は、月齢の差や発達段階に応じて、さまざまな遊びを取り入れ、自分の気持ちを言葉で表現できない子どもには、職員が代弁し友だちとの関わりを楽しめるよう支援している。</p> <p>2歳児は、基本的な生活習慣を身に付ける重要な時期と捉え、フォークを使っての食事やハサミの使用、パジャマへの着替えなど、自分の力で身の回りのことを出来るよう環境を整え、できたことを子どもと一緒に喜んでいる。</p> <p>今年度は新型コロナ禍により3歳未満児と年長児に分かれて、新年会のかかるた大会や演奏会を催しており、絵カード取りやタンバリン、カスタネット、鈴などさまざまな楽器に触れ音楽に親しんでいる。</p> <p>身近な材料を使用した雛飾りの制作やクレヨンによる壁面など自由な表現活動にも取り組んでいる。</p> <p>また、3歳未満児からモンテッソーリ教具に触れ、2歳児から年長児を見通し弁当箱の包み方を習得できるよう、主食のみ食器を弁当箱に移行している他、ホールでは3歳以上児との合同誕生会やお集まりの時間を設けるなど、養護と教育の一体的な保育を展開していることは、園の優れた特長といえる。</p>
8	A-1-(2)-⑦	3歳以上児の保育において、養護と教育が一体的に展開されるよう適切な環境を整備し、保育の内容や方法に配慮している。	a	<p>3歳児は個人差はあるものの、身の回りのことを自分で出来るようになり、制服着用も始まるため、職員は自主性を重んじながら見守り支援している。4歳児から、文字に興味を持ち始め、手紙のやり取りなど友だちと関わりを深めながら取り組み、約束やルールを守ることも学んでいる。5歳児では友だちと共通の目的を持ち、思いや考えを伝えるなど、子どもの成長に沿い保育の内容や方法に配慮している。</p> <p>3歳以上児は週1回縦割り保育も取り入れており、新型コロナ禍により集団での遊びの内容を考慮しながら実施している。制作活動や園庭遊び、外部講師による体育・茶道・柔道・絵画・公文教室など、縦割りクラスごとの時間を織り交ぜながら、遊びや活動に取り組めるような環境を整えている。また、和太鼓の演奏は練習に励みながら一つのことをやり遂げ、その喜びを分かち合う体験となっており、園では、地域や保護者に向けて発表する機会などを設けている。</p> <p>毎日晴天の日は園庭で遊ぶことを楽しみにしており、中には虫探しに熱中する子どもがいたことから、始めにランニングしてから遊ぶように取り決めている。このように“子どもが伸びやかに思いっきり遊ぶ”様子は、園の保育目標“心も体も元気な子ども”の具現化にも繋がっており、高く評価できる。</p>

9	A-1-(2)-⑧	障害のある子どもが安心して生活できる環境を整備し、保育の内容や方法に配慮している。	a	園では、発達支援において「3歳を逃すと大きい」との考えにあり、保護者と共に療育に取り組む体制を取っている。3歳未満児のクラスでは認定ができないため、保護者が特別な支援は必要ないとするケースが多く、その場合は様子を見ながら気になる行動がある時は保護者に来園してもらい見学を勧めている。 市の保健師とも連携し必要に応じて療育支援センター”まんてん”“あつたかさん”に繋げており、医療機関や専門機関から相談や助言を受ける体制を整備している。 障害児担当の職員を主に、3歳未満児の気になる子どもに対しては個別指導計画を成長に合わせた内容で作成するなど工夫が見てとれる。また、発達支援の外部研修への参加や園内研修により職員間で必要な知識や情報を共有している。 全体的な計画の中で保育の特色として、“インクルーシブ保育”を掲げており、障害のある子どもが安心して生活できる環境の整備やケース会議等での検討、市の保健師をはじめとする関係機関との連携など多岐に渡る取組は特筆すべき点である。
10	A-1-(2)-⑨	それぞれの子どもの在園時間を考慮した環境を整備し、保育の内容や方法に配慮している。	b	園では広い園庭に出て活発に活動できる環境にある。クラス内には絵本や図鑑、ままごとコーナーなどを配置し、一角には仕切りで囲いゆっくり落ち着けるスペースもあり、子どもの園での1日の生活を見通した活動と休息の時間への配慮が窺える。 延長保育は、降園できる時間になると子どもが少なくなっていくため混合保育となり、異年齢児と一緒に楽しく過ごせるよう支援し、延長時の補食も提供している。 職員間では”登降園伝達メモ”を利用して子どもの状況について適切に引継ぎを行い、保護者との連携が十分に取れるよう努めている。
11	A-1-(2)-⑩	小学校との連携、就学を見通した計画に基づく、保育の内容や方法、保護者との関わりに配慮している。	b	主任と担任が保幼小連絡会議に参加し、小学校教員と就学に向けた意見交換を行い、卒園後も学校生活の中で気になる点について確認の連絡が入っている。 また、園の職員が小学校に出向き読み聞かせを行っており、その機会に担任の先生と子どもについて話す機会もある。 5歳児は11月から午睡を無くし、文字や計算の勉強時間を取っている他、昼食時は時間を区切り、定時までに行動できるよう、また、「分かりません」とはっきりと言えるように援助するなど、小学校以降の生活について見通しを持てる機会を設けている。新型コロナ禍で小学校に出向いての見学交流はキャンセルとなっている。
<b>A-1-(3) 健康管理</b>				
12	A-1-(3)-①	子どもの健康管理を適切に行っている。	a	日々の子どもの健康状態は、登園時の検温や保護者が連絡帳に様子を記しており、情報を得ている。ケガした場合は、看護師が確認して処置したり対応している他、体調不良の場合は、静養室にて安静に過ごすよう援助している。 園では、毎年度、保健計画を作成し、月毎の計画を実行している。 SIDSは0歳児は5分おき、1歳以上は10分おきに確認して記録している。 看護師を2名配し、子どもの健康管理に努めていることは園の特長である。
13	A-1-(3)-②	健康診断・歯科健診の結果を保育に反映している。	b	年2回の内科検診では、嘱託医の発言を職員が記録しており、保護者に伝えている。また、内科検診や尿検査など再検査が必要な場合は、保護者に医療機関にかかるよう伝え、結果を得ている。 内科検診や歯科検診の結果は、全て保護者に報告しており、歯磨きやうがいの必要性を促すきっかけとなっている。



14	A-1-(3)-③	アレルギー疾患、慢性疾患等のある子どもについて、医師からの指示を受け適切な対応を行っている。	a	<p>園では、未熟児や慢性呼吸器疾患の子どもを受け入れており、看護師を中心に職員間で情報を共有している。また、中隔欠損の子どもが在園しているが、1歳までには完治している。</p> <p>アレルギー疾患の中でもアレルギー食については、小麦粉がN G食材の時には春雨やビーフン等の代替食材で対応している。また、食器を置くプレートで区別するとともに、重度の場合は、席を離している。給食室では声を掛け合う他に、掲示して間違わないように工夫している。</p> <p>アレルギー食の子どもが疎外感がないよう、職員が声を掛けて見守っている。</p> <p>更に特に配慮が必要な子どもについて、入園時に看護師が同席する場合もあり、行政等とも話し合い、サポートしている事例もある。アレルギー疾患や慢性疾患のある子どもについて、医療機関と連携し適切に対応していることは、高く評価できる。</p>
----	-----------	--	---	---

**A-1-(4) 食事**

15	A-1-(4)-①	食事を楽しむことができるよう工夫をしている。	a	<p>園では、食育計画、食育指導計画を作成しており、食育指導計画はクラス担任が年齢ごとに作成し、わからないことは給食室に相談している。</p> <p>園の畑では大根、ほうれん草など季節の野菜を育て、子どもが収穫している。切り干し大根はピーラーで子どもが作って干しており、芋は蔓も使って、きんぴらなどにして給食にて提供している。</p> <p>ホームページにはレシピを掲載している。献立は名称に工夫を凝らし、子どもにわかりやすく興味を持てるよう工夫している。</p> <p>陶器の食器を使っており、楽しい食事となるよう配慮している。</p> <p>給食会議には、給食室職員、主任、園長が参加しており、検査結果を参考に献立に反映している。</p> <p>卒園前のゆり組のリクエストは、3月の献立に反映している。</p> <p>食事を楽しむことができるさまざまな工夫は、園の特長である。</p>
----	-----------	------------------------	---	--

16	A-1-(4)-②	子どもがおいしく安心して食べることのできる食事を提供している。	a	<p>園では、離乳食を前期、中期、後期に分けて、担当職員と話し合いながら進めている。</p> <p>子どもの食べる量や好き嫌いを把握しており、苦手な食材は、職員が食べられるように援助し、食べることができた時や少しでも多く食べられた時には一緒に喜んでいる。</p> <p>給食室の職員は、給食の時間には、時間を見てクラスに入って様子を見て声掛けている。</p> <p>子どもの感想から公表だったメニューは、翌月に提供することもある。</p> <p>郷土料理はオランダ揚げ、五島の名物ツキアゲやちゃんぼんがある他、行事食では、クリスマス会があり、子どもの好きな料理が並ぶオードブルだったり、3歳以上児はバイキング形式の食事を楽しんでいる。</p> <p>過去1年間に衛生管理で問題が発生しておらず、給食室では、衛生管理マニュアルを整備しており、マニュアルに沿って衛生管理を行うとともに、必要な時にはマニュアルを見直している。</p> <p>子どもがおいしく安心して食べることのできる食事を提供していることは園の特長である。</p>
----	-----------	---------------------------------	---	---

**A-2 子育て支援**

**A-2-(1) 家庭との緊密な連携**

17	A-2-(1)-①	子どもの生活を充実させるために、家庭との連携を行っている。	a	<p>毎日の子どもの様子は、3歳未満児はてつなぎ、3歳児以上は連絡帳とシールブックにて保護者と情報交換しており、家庭での様子を把握し保育に役立てている。</p> <p>新型コロナ禍により保育参観は中止しており、個人面談は希望者のみ、朝の1時間や5歳児検診後などに設け、数名の保護者と実施している。また、園ではキッズリーも活用し、行事計画やお知らせ、園だよりの配信等家庭との連携に努め、行事だけでなく、普段の様子も登降園時に顔を合わせた折も伝えるなど保護者の安心に繋がっていることは園の特長である。</p>
----	-----------	-------------------------------	---	--

A-2-(2) 保護者等の支援				
18	A-2-(2)-①	保護者が安心して子育てができるよう支援を行っている。	a	園では、遅い時間など保護者の就労時間に合わせ相談には柔軟に対応し、相談を受けた職員が適切に対応できるよう体制を整えている。 特別保育事業の内、自主事業として、一時保育と子育て支援を実施しており、子育て支援センター“おひさまクラブ”では、園庭開放・絵本読み聞かせ・相談受付・在園児との交流など幅広く地域の親子を受け入れており、敷地内には“おひさまハウス”を新設するなど一般の保護者も含め、安心して子育てができるよう支援していることは優れている点である。
19	A-2-(2)-②	家庭での虐待等権利侵害の疑いのある子どもの早期発見・早期対応及び虐待の予防に努めている。	a	園ではこれまで、市の母子保健班等と連携し、虐待等権利侵害における事例に対応しており、現在も継続して支援している。1ヶ月検診では産婦人科の医師から母子保健班に連絡が入り、その後園で確認するなど、園では過去の写真や記録等も保管し適宜対応できるよう取り組んでいる。 また、保護者における心身の状態や生活状況から、市担当課に連絡し、実際の支援に繋がった事例もある。 子どもの状態や家庭での養育の状況の把握に務め、虐待に関するマニュアルを整備しそれに基づく職員研修も実施していることが確認できる。 日頃から市担当課の保健師との連携を強め、家庭での虐待等権利侵害の疑いのある子どもの早期発見・早期対応及び虐待の予防に努めていることは優れている点である。

A-3 保育の質の向上

A-3-(1) 保育実践の振り返り（保育士等の自己評価）				
20	A-3-(1)-①	保育士等が主体的に保育実践の振り返り（自己評価）を行い、保育実践の改善や専門性の向上に努めている。	a	園では毎年度、職員を対象とした自己評価を実施しており、職員は自身の指導を振り返る機会となっている。自己評価は、副主任が回収し、集計結果を園長、主任が検討し、抽出した園としての課題は解決に向けて協議するとともに、個人的な課題は本人にアドバイスし、保育の質の向上に繋げている。 モンテッソーリの教具の使い方については、ベテラン職員が指導している他、障がい児への支援方法についても経験のある職員が指導にあたっている。 保育実践を振り返る機会を設け、職員の自己評価に留まらず、改善や専門性の向上に連動していることは園の特長である。

## 事業所プロフィール（保育所）

1. 事業所名称： 平戸口社会館
2. 運営主体（法人名等）：社会福祉法人 サンタマリア会
3. 事業所所在地：長崎県平戸市田平町山内免 764-2
4. 事業所の長の氏名（園長等）：真浦タキヨ
5. 連絡先  
電話：0950 57 0236  
Fax：0950 57 0336  
eメール：tabirasyakaikan@tempo.ocn.ne.jp  
ホームページ：hiradoguchi-syakaikan.net/
6. 当該事業の開始年月日：昭和 23 年 8 月 5 日
7. 同一事業所（同一敷地内または同一建物内で行われる事業を指す）で実施している同一運営主体の主な福祉サービス事業

なし

8. 事業所が大切にしている考え方(事業所の理念や基本方針等を簡潔にお書きください。  
リーフレット等の資料を添付していただいても結構です。)

互いに愛し合いなさい（一人一人に向き合う保育）  
・入園のしおり参照

9. 現在の職員数（令和5年1月1日現在）：

常勤職員数 20 人、非常勤職員数 11 人（常勤換算 31 人）

10. 定員及び現在の利用者：

(1) 一般保育

	定員（人）	利用者数（人）
0歳児	10	16
1歳児	10	19
2歳児	20	20
3歳児	20	24
4歳児	20	16
5歳児	20	22
計	100	117

(2) 特別保育

	定員（人）	利用者数（人）
延長保育		100
障害児保育		7
病後児保育		0
一時保育		2
その他 (学童保育)		現在利用なし

11. 現在のサービス提供能力（利用状況）と利用者数

（以下のいずれかに○印をおつけください）

- ① サービスを希望しながら待っている人がかなりいる。
- ②  ほぼサービス提供能力に見合った利用者数で、待っている人はほとんどいない。
- ③ サービス提供能力に余力があり、希望者があれば受け入れたい。

12. 施設の状況

(1) 建物面積（保育園分）：

694.21 m<sup>2</sup>    利用者1人あたり 5.985 m<sup>2</sup>

(2) 園庭面積：

1579 m<sup>2</sup>    利用者1人あたり 0.014 m<sup>2</sup>

(3) 建築（含大改築）後の経過年数：

35 年

(4) 保育所の設置形態

- 単独設置の場合：( 1 階建)
- 他施設と併設の場合：なし  
併設施設種別：なし  
保育所の使用階数： \_\_\_\_\_ 階部分
- 建築（含大改築）後の経過年数：( 35 年)
- 3年以内の大改築計画の有無：( 有 ・ (無) )

(5) 立地条件など

- ① 交通の便： \_\_\_\_\_ 平戸口 \_\_\_\_\_ 駅から (徒歩) バス、その他 ( ) で10\_分  
バス停 \_\_\_\_\_ 平戸口 \_\_\_\_\_ から 徒歩 \_\_\_\_\_ 7\_分
- ② 近隣の環境（周辺道路の状況、近隣の施設や建物、公園までの距離など）

県土木事務所から 中瀬草原方向 徒歩3分 右上の高台

13. 苦情解決の体制について

(1) 第三者委員設置の有無

- 設置している（委員数 2人）
- 設置していない

(2) 第三者委員の活動状況（定期的な訪問を依頼しているような場合その訪問頻度等）：

園が実施している行事に参加  
大体出席していただき、地域の事柄の報告を受ける

(3) その他苦情解決に向けての取組み（意見箱の設置、オンブズマンの導入等）についてご記入ください

意見箱の設置  
苦情の有無

#### 14. 各種マニュアルの整備

- (1) 基本業務実施マニュアル ( 整備している 整備していない )
- (2) 感染症対応マニュアル ( 整備している 整備していない )
- (3) 事故発生対応マニュアル ( 整備している 整備していない )
- (4) その他のマニュアル類がありましたらご記入ください

#### 15. 事業所の特徴

サービス面で、他の事業所と比較をして優れていると思われる点、特徴があると思われる内容を3つ以内でお書きください。

① 自然に囲まれて、運動場が広く（トラックと人工芝がある）、年齢に遊ぶ場所を確保しやすい。天候が良ければ戸外遊びにでて年齢にあった遊びができる。また、異年齢児での遊びも行っている、体験豊富 職員が明るく、チームワーク良好（楽しい）を自覚している

② 仕事熱心。問題のある子どもに対し、職員全体で話し合い解決に向けている園内だけでなく、他園との意見交換会に参加するなどし、自園だけの考えにならないようにしている  
助け合って園内外の整備をしている

③ 突発的、個人的 事情を理解し、勤務、休暇を習得しやすい状況を作っている  
育児中の保育士に対して勤務しやすい体制をとっており、仕事と育児の両立がしやすいようにしている

# 長崎県福祉サービス第三者評価 利用者調査結果(保育所)

評価機関名 福祉総合評価機構

事業所名称	平戸口社会館
-------	--------

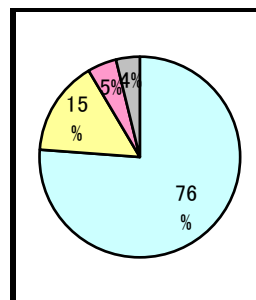
調査の対象・方法	<p>対象： 調査対象保育園の在籍園児保護者</p> <p>方法： 対象者へ調査用紙を配布 各自記入の上、評価機関へ直接郵送回収</p>
----------	--

調査実施期間	2022年 10月 14日から 2022年 11月 30日まで
--------	---------------------------------

アンケート結果平均(無回答・無効・非該当を除く810件内)

利用者総数	117 人
調査対象者数	73 人
有効回答数	29 人
回収率	40 %

はい	617 件	76%
どちらともいえない	124 件	15%
いいえ	38 件	5%
わからない	31 件	4%



総 評	<p>本アンケートは73人中29人の回答を得て40%の回収率となった。</p> <p>アンケートの結果から、利用者の満足度は全体を通して高く、特に問20「お子さんの発育や意欲を促すような遊具・玩具などが十分に用意されていますか」、問21「園外で身近な自然や社会に接する機会が多いですか」、問23「異年齢の子ども同士の交流が活発に行われていますか」、問27「保護者が参加しやすいように行事日程が組まれていますか」は96.6%と最も高い。一方、問6「保育について保護者の意向に関する調査が定期的に行われていますか」34.5%が一番低い結果となっている。</p> <p>自由記述を追っていくと、感謝のことば、賞賛は職員の日々の対応や質の高い保育、保護者への配慮、給食への感謝、保育環境の良さなど様々な記述が見られる。一方、行事や二者面談など意見・要望の声がある。</p> <p>このような結果から、保護者は一般的に満足度が高く、職員の質、保護者、子どもへの接し方について高い評価がみられる。その一方、さまざまな意見・要望があることは見逃せない。</p> <p>今後は、本アンケート結果から保護者の意向を汲み取り、保育園として改善すべき項目に取組み、貴園の更なる質の向上につながるよう期待したい。</p>
-----	--

# 長崎県福祉サービス第三者評価 利用者調査結果(保育所用)

事業所名称	平戸口社会館	有効回答数	29	人
-------	--------	-------	----	---

評価対象	No	質問項目	回答	回答数	(%)
<b>全サービス共通項目</b>					
保育理念 保育方針	1	保育所が保育を実施する上での基本的な考え方や方針を知っていますか。	はい	21	72.4%
			どちらともいえない	5	17.2%
			いいえ	1	3.4%
			わからない	2	6.9%
			無回答	0	0.0%
	2	【はいの場合】保育を実施する上での基本的な考え方や方針には納得していますか。 * 問1にて「はい」と答えた方以外は非該当	はい	20	69.0%
			どちらともいえない	1	3.4%
			いいえ	0	0.0%
			わからない	0	0.0%
無回答			0	0.0%	
非該当	8	27.6%			
3	【はいの場合】実際に利用してみて、日頃の保育サービスは基本的な考え方や方針と一致していますか。 * 問1にて「はい」と答えた方以外は非該当	はい	17	58.6%	
		どちらともいえない	2	6.9%	
		いいえ	2	6.9%	
		わからない	0	0.0%	
		無回答	0	0.0%	
非該当	8	27.6%			
職員の対応	4	保育士や他の職員は親切、丁寧に対応してくれますか。	はい	21	72.4%
			どちらともいえない	8	27.6%
			いいえ	0	0.0%
			わからない	0	0.0%
			無回答	0	0.0%
プライバシーへの配慮	5	「お子さんや自分が秘密にしたいこと」を他人に知られないように配慮してくれますか。	はい	22	75.9%
			どちらともいえない	3	10.3%
			いいえ	1	3.4%
			わからない	3	10.3%
			無回答	0	0.0%
利用者の意向の尊重	6	保育について保護者の意向に関する調査が定期的に行われていますか。	はい	10	34.5%
			どちらともいえない	7	24.1%
			いいえ	7	24.1%
			わからない	5	17.2%
			無回答	0	0.0%
	7	困ったことを相談できる職員がいますか。	はい	23	79.3%
			どちらともいえない	6	20.7%
苦情受け付けの方法等	8	苦情がある場合の受付や解決の仕組みについて、説明がありましたか。	はい	19	65.5%
			どちらともいえない	4	13.8%
			いいえ	4	13.8%
			わからない	2	6.9%
			無回答	0	0.0%
不満や要望への対応	9	不満や要望を気軽に話したり伝えたりすることが出来ますか。	はい	17	58.6%
			どちらともいえない	7	24.1%
			いいえ	5	17.2%
			わからない	0	0.0%
			無回答	0	0.0%
10	お子さんや保護者の要望・意見をもとに、改善が行われていますか。	はい	16	55.2%	
		どちらともいえない	8	27.6%	
		いいえ	3	10.3%	
		わからない	2	6.9%	
		無回答	0	0.0%	



# 長崎県福祉サービス第三者評価 利用者調査結果(保育所用)

事業所名称	平戸口社会館	有効回答数	29	人
-------	--------	-------	----	---

職員間の連携・サービスの標準化	11	あなたが要望したことが他の職員にも伝わり、理解されていますか。	はい どちらともいえない いいえ わからない 無回答		16件 55.2% 8件 27.6% 0件 0.0% 5件 17.2% 0件 0.0%
	12	保育士や他の職員の保育姿勢はだいたい同じですか(職員によって言うことやすることに違いがありませんか)。	はい どちらともいえない いいえ わからない 無回答		15件 51.7% 8件 27.6% 4件 13.8% 2件 6.9% 0件 0.0%
地域における子育て支援	13	地域や家庭(保育所を利用していない家庭も含めた)の子育て相談や交流会など、積極的に保育所の開放をしていると思いますか。	はい どちらともいえない いいえ わからない 無回答		24件 82.8% 3件 10.3% 1件 3.4% 1件 3.4% 0件 0.0%
事故の発生	14	お子さんが保育所の中で怪我をしたことがありますか。	はい どちらともいえない いいえ わからない 無回答		24件 82.8% 0件 0.0% 4件 13.8% 1件 3.4% 0件 0.0%
	15	【はいの場合】怪我をした後の対応は適切でしたか。 * 問14にて「はい」と答えた方以外は非該当	はい どちらともいえない いいえ わからない 無回答 非該当		20件 69.0% 4件 13.8% 0件 0.0% 0件 0.0% 0件 0.0% 5件 17.2%
利用に当たっての説明【過去1年以内に利用開始した場合】	16	この保育所を利用する前に、保育所での生活や保育の内容についてわかりやすい説明がありましたか。	はい どちらともいえない いいえ わからない 無回答		20件 69.0% 3件 10.3% 1件 3.4% 0件 0.0% 5件 17.2%
	17	実際に利用してみて、説明どおりでしたか。	はい どちらともいえない いいえ わからない 無回答		19件 65.5% 5件 17.2% 0件 0.0% 0件 0.0% 5件 17.2%
内容サービス項目					
食事	18	献立や栄養・食べ方などが工夫されていますか。	はい どちらともいえない いいえ わからない 無回答		25件 86.2% 0件 0.0% 2件 6.9% 2件 6.9% 0件 0.0%
施設的环境	19	お子さんが生活するところは心地よく過ごせる雰囲気ですか。	はい どちらともいえない いいえ わからない 無回答		24件 82.8% 4件 13.8% 0件 0.0% 1件 3.4% 0件 0.0%
	20	お子さんの発育や意欲を促すような遊具・玩具などが十分に用意されていますか。	はい どちらともいえない いいえ わからない 無回答		28件 96.6% 1件 3.4% 0件 0.0% 0件 0.0% 0件 0.0%

## 長崎県福祉サービス第三者評価 利用者調査結果(保育所用)

事業所名称	平戸口社会館		有効回答数	29 人	
保育内容	21	園外で身近な自然や社会に接する機会が多いですか。	はい		28 件 96.6%
			どちらともいえない		1 件 3.4%
			いいえ		0 件 0.0%
			わからない		0 件 0.0%
			無回答		0 件 0.0%
	22	お子さん一人ひとりに合わせた豊かな感性を育む活動・遊びが行われていますか。	はい		23 件 79.3%
			どちらともいえない		3 件 10.3%
			いいえ		0 件 0.0%
			わからない		3 件 10.3%
			無回答		0 件 0.0%
	23	異年齢の子ども同士の交流が活発に行われていますか。	はい		28 件 96.6%
			どちらともいえない		1 件 3.4%
いいえ				0 件 0.0%	
わからない				0 件 0.0%	
無回答				0 件 0.0%	
24	お子さん一人ひとりの個性や生活習慣などの違いが尊重されていますか。	はい		21 件 72.4%	
		どちらともいえない		6 件 20.7%	
		いいえ		0 件 0.0%	
		わからない		2 件 6.9%	
		無回答		0 件 0.0%	
保護者への 育児支援	25	送迎時の対話や連絡帳などで、日々のお子さんの様子を知ることができますか。	はい		21 件 72.4%
			どちらともいえない		8 件 27.6%
			いいえ		0 件 0.0%
			わからない		0 件 0.0%
			無回答		0 件 0.0%
	26	子育てに関する気がかりな点や悩みについて、相談しやすいですか。	はい		20 件 69.0%
			どちらともいえない		8 件 27.6%
			いいえ		1 件 3.4%
			わからない		0 件 0.0%
27	保護者が参加しやすいように行事日程が組まれていますか。	はい		28 件 96.6%	
		どちらともいえない		0 件 0.0%	
		いいえ		1 件 3.4%	
		わからない		0 件 0.0%	
健康管理	28	登園時に、お子さんの様子についての把握・確認がありますか。	はい		24 件 82.8%
			どちらともいえない		5 件 17.2%
			いいえ		0 件 0.0%
			わからない		0 件 0.0%
			無回答		0 件 0.0%
	29	インフルエンザなどの感染症が発生したときには、発生について説明がありますか。	はい		23 件 79.3%
			どちらともいえない		5 件 17.2%
			いいえ		1 件 3.4%
		わからない		0 件 0.0%	
		無回答		0 件 0.0%	